

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2693100030		
法人名	株式会社 キャビック		
事業所名	キャビックケアホームすいーとハンズ物集女 1F		
所在地	京都府向日市物集女町五ノ坪21番地の4		
自己評価作成日	平成24年7月3日	評価結果市町村受理日	平成24年9月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2693100030&amp;SCD=320&amp;PCD=26">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2693100030&amp;SCD=320&amp;PCD=26</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人 京都ボランティア協会		
所在地	京都市下京区西木屋町通上ノ口上ル梅湊町83-1「ひと・まち交流館京都」1F		
訪問調査日	平成24年7月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ここであなたと出会えてよかったよ」と、思っていたような馴染みの関係を作ることに力を入れています。明日も、また来てね～の言葉を何よりの励みとして職員一同頑張っております。お一人おひとりを、大切にお元気で過ごしていただけるよう、日常の食事や入浴・排泄も含めて、各利用者様の個人の状態の把握に全職員が取り組んでおります。すいーとハンズ物集女の独自に理念…「ご利用者様・ご家族様・職員も共に支え合い 優しさ笑顔あふれるすいーとハンズ物集女」でありたいと、今日もご利用者様と共に歩んでまいります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成22年6月に開設して2年目のグループホームである。地域密着型の理念の基、地域との馴染みの関係の構築を課題にし、今年度は「すいーとハンズ物集女」ホーム独自の方針を職員たちと一緒に考え、作成したものを玄関入口に掲げられた。目標達成に向けた具体的な取り組みとしては、地元の保育園や介護老人施設との交流を積極的に行ったり、地域のボランティアの参加や夏まつり等の開催など地域交流に力を注いでいる。また、広報誌として「物集女だより」を6月に創刊(今後2カ月に1回発行予定)して、家族をはじめ、運営推進会議メンバーや行政にも広く配布し、事業所との連携や相互理解に役立たせている。なお、立ち上げからの職員の異動等で職員の入れ替わりがあり、家族との連携については努力を要する点があり今後の工夫に期待する。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	すいーとハンズ物集女の理念として「ご利用者様・ご家族様・職員も共に支え合い、優しさで笑顔あふれるすいーとハンズ物集女」を掲げ、実践している。	開設1年目を経過した昨年、職員全員で話し合いを持ち、法人の理念に沿った、事業所独自の理念を作成し、玄関に掲示している。職員全員で作成したことで、より共有が深まり、実践に役立っている。会議の中でも実践ができていか振り返りを行い確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事等で地域の方に参加・協力していただいたり、地域の行事に参加するよう努めている。	地域の保育園児が敬老の日に遊びに来て交流を図っている。また同地域の特別養護老人ホームの行事に参加や施設内喫茶店に行くなど双方向の交流を行っている。「すいーとハンズ物集女」の夏祭りは2回目となり、より一層地域と一緒に楽しめる企画準備を行っている。ボランティアの受け入れも盛んである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年は、今までになかった掲示板を表玄関の横に作り近隣の方にお知らせしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度開催、利用者さまの状況やホームの様子を伝え意見や要望を聞き、サービス向上に生かしている。	市役所、自治会、民生委員、包括支援センター、消防団長、シルバー人材センターをはじめ、家族の出席率も高く、多方面からの参加されており、出席者からの活発な意見交換が交わされていることが記録から確認できた。会議録は関係機関やご家族に配布し、職員全員回覧して共有している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	向日市役所・社協・地域包括支援センターには、1か月に最低2回は出向きホームの現状を伝えたり相談に乗ってもらっている。	日頃から情報共有や連携をとり、困難事例のケアサービスについての相談や苦情の対応など相談している。「記録の必要性やコミュニケーションを密接に取ること」などその都度必要なアドバイスを受け、ケアサービスの向上に役立てている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに全員で取り組んでいる。ゲートや玄関の施錠は日中は行っていない。	契約書に記載しており、車椅子利用者の身体拘束について、ケア会議で話し合いが持たれるなど、日頃から職員同士で注意している。しかし言葉による身体拘束など、身体拘束の定義の研修が未実施であり、事業所の指針を示したものは無い。	職員間でも身体拘束の定義は未確認である。一年間の研修内容にも盛り込まれていない。ホームの指針を作成し、正しく理解しケアの質の向上のためにも研修を行われることを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束をしないケアに全員で取り組んでいると同じように言葉にも虐待があるという事を保健所等で学び職員には伝え、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当ホームにも、成年後見人制度を利用している利用者様もおられるが、職員全体でまなぶ機会とはとれていない。そのため、活用できる支援をおこなうところまでいっていない。社内報で、勉強はおこなっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前からの見学から始まり、契約時は必ず読み合わせを行い、家人様からの疑問や不安なところは、お答えしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家人様からの意見は玄関に意見箱を設けて承るようにしているが、ホーム長や職員にはいつでも伝えてもらえるような体制や雰囲気作りを行っている。また、2カ月に1度の運営推進会議を利用している。	運営会議には家族の参加は多く、関心は高い。施設運営についてグループホームの意義を理解してもらえるように情報を発信している。しかし一方的な情報提供になりやすく、事情等で参加できない家族や、不安や様々な悩みを抱えた利用者の意見の伺うための機会づくりが少ないように思われた。	施設側の一方的な情報を提供の場にならないよう外部に表せる機会をもっと持つことを期待する。不参加家族の意見もくみ取れるよう日頃からのコミュニケーションを大切に、少数の意見や要望に対して表せる機会として満足度調査等を行い意見の反映ができる工夫をされてはいかでしょうか。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に2回のフロア会議の機会を設け利用者様だけのことではなく、職員同士の疑問や意見を伝えられる場としている。	月2回のフロア会議などで職員から積極的に意見や提案がなされている。一例として地元の方から、「この建物はどんな施設か分らない」という声を聞いた職員が、「表の扉に掲示板を設置して、話題を提供しよう」という声が上がって実行した。その結果地元の方がボランティアに当たり、気軽に訪問してくれるようになった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自の勤務状況は必ず把握している。正当な時間外手当については取得するよう勧め、会議等への参加についても手当を支給している。また、リーダー手当・サブリーダー手当・ケアマネ手当を支給している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	保健所や役所関係・地域の病院等が主催の研修には積極的に参加している。職員の自らの提案により研修に参加することもある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	乙訓グループホーム協議会へは参加している。職員については、近隣の特養へレクに出かけた際に少しずつだが、交流の機会を持つようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初めて面談に出かけたケアマネアが当日の夜勤取りをするようにし、家人様との情報を共有しながら、安心できる場所である事と 思っていただけよう、職員全員でフォローするように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前から、ケアマネ・ホーム長は何度か面談や電話でご利用者様の情報を得、ホームでの生活への要望やご本人の希望を聞き入居時暫定プランに繋げてる事により初期から安心して暮らしてもらえるよう援助している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前とできる限り変わらない環境づくりをし、また職員全員でケアプランに沿った同じ方向性を持ったケアを行う事により、必要に応じた支援の提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者と同じ目線に立ち、理解しようとする姿勢を持ち、決して否定から入らないことを意識し家族の様に思っていただけよう心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	開所当初より、面会時間を決める事なく、家族さんには自由に面会に来てもらっている。また、受診時等を利用し、家族さんと外食やドライブを楽しんでもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者さんが入居前に行っておられた絵手紙や短歌の会の方に来てもらったり、大好きなうどんやさんに家族やお友達と出かけてられたりして、楽しい交流を続けておられる。	元々地元で短歌クラブに入っていた利用者は同じクラブの人が来られ、以前と変わらず短冊に短歌をたくさん書きとめ楽しんだり、以前通っていた美容院の方の行き来があり交流を深めている。また友人や家族と一緒に外出を楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症を持っておられる利用者さんなので、自分の思いや気持ちを上手く伝えられず、トラブルになってしまうことがある為、常に職員が気配りを行い、利用者さん同士が良い関係でいられるよう、橋渡しを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に転居された方・契約が終了された方に対しても状態の確認を行い、家族さんにもその後の経過を確認している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を家人さんに記入してもらう事や直接ご本人にお聞きすることでできる限り希望・要望意向に沿うよう努めている。	アセスメントはセンター方式を用い、月2回のフロア会議や日々のミーティングで思いの意向や希望等は、申し送りノートに記入し職員間で共有しているが、利用者、家族の意向や要望が十分に反映されていない面が見受けられた。	本人家族の思いや意向を把握しケアに活かすため、入居後の変化のアセスメント記録が大切である。思いや意向が反映できるよう日頃から生活歴・趣味・嗜好などきめ細かく情報をとれるセンター方式の活用を期待する。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センタ方式のシートを家人さんに記入してもらう事や、入居前の状態・施設や病院での情報を収集し全職員が把握できるようにファイルをしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメント用紙の作成や、カンファレンスから心身の状態有する力・持っておられる力を把握するように努めている。一人ずつのケア記録に一日の過ごし方を記入することにより、職員間で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なカンファレンスで職員の意見を取り入れまた、心身の状態の変化に応じてケアプランの見直しを行っている。家人さんには、運営推進会議や面会時に意見を伺っている。	月1回ケアマネジャーを中心に、看護師や家族の意見を伺い、計画作成担当会議を行って、ケアプランの見直しを行っている。経過記録は介護計画に沿って記述し、モニタリングに活用している。月2回フロア会議やカンファレンスで、希望や意向に添えているか検討し、モニタリングは3ヶ月度に行い、評価結果はフロアに置いて全員が目を通してしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個人記録への記入と、申し送りノート・口頭での申し送りで職員間で情報を共有している。又、状態の変化等あればカンファレンスを行いケアプランの見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人や家人さんの希望に沿うよう出来る限りニーズを把握し外出支援・受診支援・福祉用具の情報の提供等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出行事や普段の散歩・買い物で地域資源を活用している。又、掲示板の設置やボランティアの活用・近隣の特養や保育園との交流を持つ事ができるようになった。向日市天文館も訪れる予定である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームと提携している病院の情報公開と入居前迄のかかりつけ医から受診は選んでもらうよう希望を尋ねている。	提携病院から月2回往診に来てもらっているが、かかりつけ医希望の場合はホームから診療情報提供を行い、ホーム契約の訪問看護師が連携をとっている。受診は家族が付き添うことが基本だが、状況に応じて対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の定期訪問時にはその間の状態の変化等がわかる用記録をつけている。又、日々の急変時には電話にて指示がもらえるシステムを築いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携病院の地域連携室と連絡を取りあい李朝者の容態を聞いたり面会に伺い相談員や医事課クラークとの関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化したときの対応を文書で確認してもらっているが地域の関係者と共にチームを作る所までは関係作りができていない。	入居時に特養申請の希望を伺い、希望に応じて、申請の手続きしている。また「医療との連携内容と利用者が重度化した場合の指針」を作成し、家族に説明して同意を得て契約している。看取りについての看護・介護は行わないことを明記している。重度化した場合は提携病院と連携をはかり、主治医の判断のもと、状態に応じて対応している。	契約時に説明して同意を得ているが、家族からは経過施設という認識があり、不安に感じておられる。日頃から家族とコミュニケーションを密に持ち、退所時等の連携がスムーズになるよう、関係機関との連携や情報を提供し、話し合う機会を持つように工夫をされることを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルはリビングの電話近くのすぐ見える場所に貼っている。又、鞆に必要な物品を記入を記入した札を付けている。新人職員・新入職員には、順次講習を受けるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練は半年に1回行っている。地域との協力体制がとれる様運営推進会議で自治会の協力を求めるように発信している。運営推進会議の行政サイドのメンバーに消防署長OBがおられるので訓練については、アドバイスをもらっている。	消防訓練は年2回実施している。運営推進会議の参加者の社会福祉協議会から、車いすの方の避難経路や避難時間を想定するようにアドバイスをもらって実施する予定である。災害に備え、計画停電のシミュレーションやLEDランラン・カセットコンロの購入・非常食(水・乾パン・缶づめ等)3日分を備蓄している。天災についてのマニュアルはない。	今後の課題として、天災時のマニュアルを作成し、風水害についても避難訓練や避難経路などの確認をされてはどうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴や排せつには、特に気遣っている。個別対応や言葉かけに対してプライバシーの確保を、厳守している。	羞恥心やプライバシーの配慮として、同性介護を心掛け、本人の気持ちを大切にし、さりげないケアを心掛けている。また自己決定しやすいよう、わかりやすい表現にしたり、優しい言葉で声かけを行うなど、個人の尊厳を大切にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で「自己決定」を重視している。飲み物は、ドリンクメニューを作成し常にセレクトしてもらっており、食事作りではメニューを利用者さんに決定してもらうことも、多々ある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとりひとりのペースを大切にするよう、例えば起床時間も自由であり、その方なりの時間の使い方をしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一度ビューティーヘルパーに来てもらいご本人の意思・希望を聞いてもらっている。洋服選びも利用者さんと職員と一緒に選んだり、コーディネートの支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理がお得意な利用者さんには、特にお願いして職員と共に調理をしている。配膳前のテーブル拭きや配茶や盛り付けなどは、概ねの方が参加している。季節感が味わえるような献立を意識している。	一人ひとりの食への関心を高めるため、一緒に調理したり、盛り付けやできる限り参加してもらい、季節感の料理を楽しめるよう献立を工夫している。利用者同士で自然に役割ができ、配善や片づけや食器洗い等も一緒に行ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量の把握には、常に努めている。その時々体調の把握には、特に気をつけている。申し送り時には、しっかり申し送りが出来ている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず口腔ケアを行ってもらっている。ひとりで出来る方には、さりげない見守り、半介助・全介助共に支援している。歯科医師・歯科衛生士のアドバイスをもらうこともある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄確認表を用い各利用者さんの排泄サイクルを把握して、日中夜間問わず、トイレ誘導を行い、自立に向けて支援を行っている。	排泄のパターンを記録し把握することにより、トイレ誘導を行った結果、失禁少なくなり、トイレで排泄できるようになり、昼間は失禁がなくなった例や、夜間のみポータブルトイレを使用するだけになった方など自立にむけた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫・水分量の把握はもちろんだが、毎日体操を行ったり歩行の安定している方は階段を使って運動をしてもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまうことはないが、その日の体調や気分を考え声かけを行っている。入浴の嫌いな利用者さんには、言葉かけの工夫を行ったうえで、来訪時の家人さんにも一声かけていただくようにしている。	本人の希望や体調を勘案しながら行っている。毎回「頭が痛い」と拒否のある方などは2、3人で代わる変化や気分を見ながら声かけをし、チームプレーで誘導したり、夜間入浴を行うときもある。また体調を考えて、足浴に変更し安眠出来るように個別支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	清潔な寝具の提供・温度や湿度の空調に気配りをおこなっている。また、不安な気持ちを訴える利用者さんには、夜勤者や遅出者が寄り添い一緒にお茶を飲んだりおしゃべりをしたりと安心してもらえる環境を作っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各自の薬の目的・飲み方・副作用など、職員で共有している。また、与薬ミスがおきないように、何人もの目でチェックする方法をとっている。服薬方法も個人の状態に合わせて支援している。また、常日頃から病院や訪看の指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人ずつのお楽しみ事は、職員間で共有できている。将棋やドライブ・散歩など気分転換を図れる様努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常の外出は、支援に努めているが利用者さんの間で「夜にでかけたい」との希望があったこともあり、近隣の施設の夜に開催されるお祭りにボランティアの力も借り出かけて行くことができ、大喜びされていた。	ご近所や馴染みの保育園までの散歩・ドライブ・買い物等日常的に外出支援を行っている。近所の甘味屋に行き、蜜豆を食べにいき喜んでもらっている。また近所の介護施設で夜間の祭りがあり、夜に外出出来たことが大変本人に喜んでもらえ、今後につなげたいと考えている。全体としては個別の希望についてはなかなか実施できていない。	家族からの外出の希望が大きい。個別の対応については、本人家族の希望を伺い、普段行けない所の思いを共有し、家族の協力も得て、できるだけ希望が叶えられるように援助や支援の工夫を期待する。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者さん個人の小口現金を家人さんよりお預かりしている。家人さん了承のもと、日用品など必要なものの購入にあてることがある。その際もなるべく利用者さんに一緒にきてもらうようにこえをかけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々の事情もあり、全ての方が自由に家人さんや知人にオープンに連絡を取れる状況ではない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食事時にはテレビを消して、耳に優しく心地良い優しい音楽を流したり、利用者さんのお得意な俳句や短歌を発表させてもらったり、利用者さんが活けた花が常に切らすことなくリビングを飾ってもらえるように努めている。	共有リビングは観葉植物やフラワーセラピーで活けた花を切らすことなく飾り、ダークブラウンを基調に設え電球色のライトを使用したスペースのため、ゆったりとし落ち着いて過ごせている。会話は大きな声で話さず、ゆっくり低音で話をするように指導している。温度・湿度・空調は適度に管理し、窓際にゆったり座れるソファを配置して、居心地の良い空間作りに工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中ではお一人になれる場所を上手く設えているとは言えない。今後は、昔馴染みお家具を設置したり、家具の購入をも考慮中。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時から馴染みの家具や調度品を搬入してほしいと家人さんにはお願いしている。今後も引き続きお願いをして、リビングにも昔の馴染みの品を飾りたい。	いろんな思い出の写真が飾ってあったり、使い慣れた家具の上に遺影を飾り、簡単なお仏壇代わりに、お仏飯やお茶をお供えするのを手伝っている。趣味の俳句の短冊や絵手紙を職員と一緒に壁に掲げ、少しずつ増えてきているのを楽しみにしている利用者もいる。本人が居心地良く暮らせるよういろいろと工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	常に職員はさりげない見守りで利用者さんが迷いのない安全な生活を営んでもらえるよう、言葉かけ案内の仕方等を工夫している。		